

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 2月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	0110317328		
法人名	医療法人社団 鈴木内科医院		
事業所名	グループホーム きよた		
所在地	札幌市清田区清田4条2丁目10-25 (電話) 011-882-4188		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年2月23日	評価確定日	平成22年3月6日

【情報提供票より】(平成 22年 1月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人、非常勤 2人、常勤換算	7.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:20,000円 暖房費:6,000円(11~3月)
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(53,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり		1,100 円

(4) 利用者の概要(2月 23日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護 1	1 名	要介護 2	2 名
要介護 3	3 名	要介護 4	1 名
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 72 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鈴木内科医院、札幌しらかば台病院、玄番歯科クリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームきよたは、経営主体である医療法人が同敷地内にデイケアと2つのグループホームを運営しているため、法人内でのイベントや趣味の活動、カラオケ、映画の上映などに参加でき、大型車両を利用して外出できるなど法人の機能を十分に活かしている。また、医療を通じて地域とのつながりが深い。この事業所の特徴は、利用者と職員はもとより、家族との信頼関係が強いことである。職員は家族も参加できる行事を多く企画し、家族の訪問回数も多い。職員の教育にも熱心で、毎週法人の勉強会を実施し、外部研修にも毎年必ず全員が参加している。殆どの職員が専門の資格を有しており、良質なケアサービスが実施されている。利用者はゆったりと自分らしい暮らしを楽しんでおり、表情が明るく笑顔が絶えない。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善課題である「職員の異動、退職についての報告」「家族の相談窓口の開設」については改善計画を作成して取り組み改善している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各職員に項目を割り当て、職員同士で相談しながら評価表に記入してもらい、管理者がまとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では運営報告のほかサービス評価、町内会活動などをテーマに意見交換し、昼食会も行っている。今年度は2月現在で3回の開催に留まっている。今後はテーマを検討したり、当日に他の行事や防災訓練、勉強会などを組み合わせるなどの工夫で、運営推進会議を2ヶ月に1回開催することを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の訪問時や運営推進会議などで家族の意見を聞いている。また、「ご家族連絡ノート」に家族の意見を記載し、全職員が毎日確認し、運営に反映させている。玄関には意見箱を設置している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入会し町内会行事に参加しているほか、老人会の定例会に参加し毎月利用者の誕生日を祝ってもらったり、地域の会館で利用者の作品を展示してもらっている。また近隣の学童保育の児童達との交流会があり、事業所を訪問してくれるなど地域との交流は盛んである。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念に「尊厳のある暮らし（尊重・プライバシーを守る・地域社会の一員としての生活を支える）」を掲げ、地域密着型サービスとしての独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所理念は居間や廊下などの目立つ場所に掲示し、ホーム便り「きよメール」に掲載しているほか、毎月の「ホーム会議」で確認し、日々のケアを行う場面でも理念を意識してサービス提供を行っている。また、新人職員のオリエンテーションでも理念について説明している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し町内会行事に参加しているほか、老人会の定例会に参加し毎月利用者の誕生日を祝ってもらったり、地域の会館で利用者の作品を展示してもらっている。また近隣の学童保育の児童達との交流会があり、事業所を訪問してくれるなど地域との交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各職員に項目を割り当て、職員同士で相談しながら評価表に記入してもらい、管理者がまとめている。前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」については殆どが改善されている。自己評価と外部評価の両方で改善計画表を作成し、期間を設定した上で改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、町内会長、老人会会長、地域包括支援センター職員、利用者及び家族などが参加し、運営報告のほかサービス評価、町内会活動などをテーマに意見交換し、昼食会も行っている。今年度は2月現在で3回の開催に留まっている。</p>		<p>テーマを検討したり、当日に他の行事や防災訓練、勉強会などを組み合わせるなどの工夫で、運営推進会議を2ヶ月に1回開催することを期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらっているほか、清田区グループホーム交流会に参加し、市の担当者や地域包括支援センター職員を招待して情報交換をしている。また、分からないこと、困ったことなどは区の担当者に気軽に相談している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問の際に利用者の状況を細かく報告し、写真をふんだんに盛り込んだ利用者ごとの「きよメール」を毎月家族宛に郵送している。また、毎月の利用料金は口座振り込みであるが、預かり金については現金での清算として、それを機会に家族に訪問してもらえよう工夫している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の訪問時や運営推進会議などで家族の意見を聞いている。また、「ご家族連絡ノート」に家族の意見を記載し、全職員が毎日確認し、運営に反映させている。玄関には意見箱を設置している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人間での職員の定期異動はない。止むを得ない理由による職員の離職や異動がある場合は、利用者に伝えてお別れをしている。過去に職員の担当制を採用していたが、担当職員が退職する際に利用者のダメージが見られたので、その後は介護計画の担当のみに留め、日常のケアは職員全員で関わるように改善した。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	毎週法人の勉強会を実施しており、座学が中心であるが、月1回は職員が交代で発表する仕組みである。また、外部研修には年間1人1、2回は参加している。有資格者には資格手当を支給しており、殆どの職員が専門の資格を有している。業務マニュアルも整備され、新人職員の研修に活用されている。		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	区の管理者連絡会に参加し、管理者も職員も勉強会や親睦会で同業者と交流する機会を持っている。また、毎年他の事業所に職員が見学に行き、情報交換を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用開始前に本人や家族がホームを見学を訪れ、納得した上で利用を決めている。見学が難しい場合は管理者が本人を訪問し、事前に馴染みの関係を築いている。利用開始後は、利用者が安心できるように家族に頻りに訪問してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらかつて喜びを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は利用者に煮物の作り方などの料理を教えることが多いが、特に正月の餅つきには利用者の指導が必要とされている。また、職員が忙しかったり個人的なことで悩んでいる時に、利用者はやさしく気を使ってくれたり言葉かけをしてくれる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用開始時に家族から詳しい情報提供を受けてアセスメントシートを作成し、言葉にできない思いや意向については蓄積された本人情報を基に表情や行動などから把握している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>新規の介護計画は病院や関係機関、また家族からの情報を基に、利用者、家族の意向を入れて計画作成者が原案を作成する。1ヶ月後にセンター方式で利用者の状態をアセスメントし、担当職員が計画作成担当者の指導の下で介護計画を作成している。カンファレンスで課題や自立への可能性を話し合い、完成させた計画書を家族に説明し同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月ごとに見直し、本人の状態や介護記録を参考にしてモニタリングを行い、更新計画を作成している。大幅に心身の状態が変わった場合は随時カンファレンスで見直し、新たに作り直している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の事情に応じて通院送迎を行っている。利用者は法人のデイケアで行っているイベントに参加し、また隣接している法人の別事業所の趣味活動やカラオケ、映画の上映などに参加しており、法人内の機能を十分に活かし柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医院から月2回の往診、週1回の看護師の訪問があり、入居前から協力医院を受診していた利用者が多く継続して受診している。他科の受診の際、必要時には家族と一緒に職員も同行し、主治医と連携し適切な医療が受けられるように配慮している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「重度化した場合の対応に関わる指針」の中に看取りに関する考えを明記し、入居時に説明し同意を得ている。利用者の病状から主治医の説明がある時は職員が同席し、家族の希望や方針を確認している。話し合った内容を記録しているが、文章で同意書を交わすような方法は特にしていない。</p>		<p>事業所として出来ること、出来ないことを明確にして、看取りケアの内容を文章化するなど、具体的に検討されることを期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の採用時に業務マニュアルの中でプライバシーについて指導し、また勉強会でも職員間で学び合っている。ケアを行う前に、利用者に対して呼びかける際の敬称など必ず本人や家族の意思を確認し、また排泄の声かけは他者に分からないように配慮している。個人情報などの書類は目につかない場所に保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事、入浴、運動などの大まかな決まりはあるが、利用者の起床時間に合わせて朝食を用意するなど個別に対応している。希望すれば居室で食事を摂ることもできる。小学校の開放図書館、近隣の理美容室、外食などに出かけたり、塗り絵、貼り絵をするなど個人の希望に沿って支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日の日勤者が食材を見て利用者の好みを取り入れて献立を立てている。収穫時には事業所の畑で採れた旬の野菜類を食卓に添えることもある。メニューを決めて職員と一緒に買い物から調理まで参加する利用者もいるが、個人の身体能力に応じて調理の下ごしらえや後片付けをしている。利用者は職員と会話をしながら楽しく食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特別なことがない限り毎日午後から入浴ができる態勢を整え、週に2～3回は入浴している。健康にも良いゆず湯や漢方性薬湯、好みの入浴剤など趣向を凝らし、入浴が楽しめるように取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の他に、日めくり、庭の草花の水やりや草取りなど心身の状態に応じて役割を持って生活をしている。習字、貼り絵、人形作りの趣味や将棋、カラオケなどを楽しみ、時には家族との外出や行事などで家族と一緒に過ごしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季には天候を見て、週に3～4回は外に出て、近くの公園や敷地内を散歩している。興味があるペットショップや農機具の展示を見に出かけた、買い物、外食を楽しんでいる。冬場も外食や買い物で月に3回くらいは出かけており、家族と一緒に外出や外泊の機会も多く取り入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないで自由に出入りができるように配慮している。玄関に取り付けたセンサーで出入りを確認し、外に出たい時は行動を共にして納得が得られるように対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>法人の医院、別事業所との合同訓練を年に2回実施し、その他、事業所独自に夜間を想定した避難訓練を行っている。訓練には町内の役員も参加してもらい、災害時の協力が得られる体制を整えている。勉強会で急変時の対応を学んでいるが、事業所としての救急救命の訓練は行っていない。</p>		<p>事業所として、全職員が定期的に救急救命法の受講ができるような取り組みに期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量、水分量を記録し、水分量は1,000cc以上を目安にしている。食事はミキサー、とろみ、キザミ食などを提供し、年に1回は法人のデイケアが委託している管理栄養士からアドバイスをもらい、野菜を中心にした献立を作り栄養バランスに注意している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個人住宅を改造した廊下や居間などの共用空間は家庭的な設営で、陽当たりも良く明るい。調理の匂いや音を聞きながら、居間で食卓の椅子やソファに座ってゆったり過ごしている。壁には職員と一緒に作った季節の貼り絵、日めくり、絵、行事の写真などが飾ってある。2階に居室が多く、階段昇降は運動にもなっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には椅子、テーブル、鏡台などの家具類が持ち込まれ、家族の写真や縫いぐるみ、個人の作品が飾ってあり、その人らしい居室づくりになっている。居室には湿度計を置き、洗濯物を干すなどして湿度に気をつけている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。